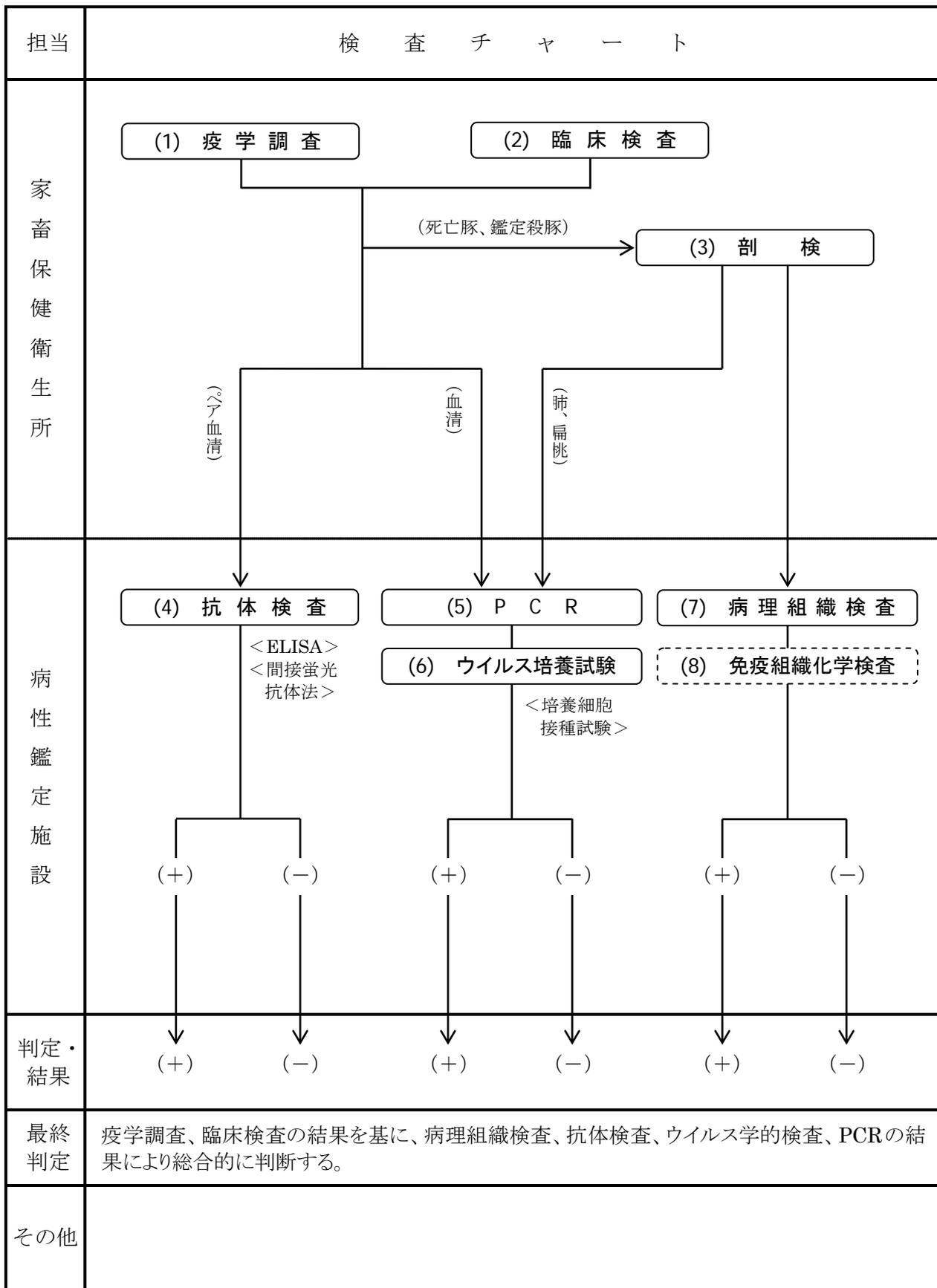


79 豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）〔届〕



→類似疾病検査

- ① 70 豚コレラ ② 76 オーエスキー病 ③ 75 トキソプラズマ病 ④ 66 流行性脳炎(日本脳炎)
- ⑤ 86 豚パルボウイルス病 ⑥ 100 豚マイコプラズマ病 ⑦ 96 豚胸膜肺炎
- ⑧ 102 ヘモフィルス・パラスイス感染症(グレーサー病) ⑨ 72 豚レプトスピラ病
- ⑩ 88 豚ゲタウイルス病 ⑪ 99 豚パスツレラ症(パスツレラ肺炎)
- ⑫ 89 豚サーコウイルス関連疾病(PCVAD)

○ 病原体:PRRS ウイルス; Porcine reproductive and respiratory syndrome virus [*Porcine reproductive and respiratory syndrome virus, Arterivirus, Arteriviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 呼吸障害は 30～60 日齢の離乳豚で好発。他の病原体の混合感染が多い。
- ② 主に妊娠後期の死産。希に妊娠前期にも起こる。
- ③ 流産は全胎子に及ぶことが多い。
- ④ 密飼など飼養条件が悪い。
- ⑤ 最近、外部より母豚を導入した。

(ELISA)

添付資料に従い実施。ただし、非特異反応が希に認められるので、疑わしい場合は、蛍光抗体法等による確認が必要

(5) PCR^{1), 2)}

PCR を行い特異遺伝子が検出された場合、陽性とする。

(2) 臨床検査

- ① 離乳後子豚では不顕性感染が多い。
- ② 離乳肥育豚の呼吸障害(腹式呼吸、呼吸促迫)
- ③ 流産
- ④ 眼瞼などに浮腫
- ⑤ 希にチアノーゼ
- ⑥ 発育不良でヒネ豚になる。

(6) ウイルス培養試験(培養細胞接種試験)

使用細胞: MARC-145 細胞、MA104 細胞、豚肺細胞マクロファージ

接種材料: 血清、肺(流産胎子含む)、扁桃

培養方法: 37℃で培養

吸着時間は 1.5～2.0 時間と通常よりも長めにする。

成績: CPE の確認

同定: 蛍光抗体染色による培養細胞中の特異抗原の確認

(3) 剖 検

呼吸障害例では、肺に全葉性の肝変化がみられるが、細菌が混合感染している場合、肉眼所見からの特定は困難である。

リンパ節の腫大がみられることがある。

(7) 病理組織検査

- ① 流産胎子には特徴病変はない。
- ② 呼吸障害例では、間質性肺炎がみられる。

(4) 抗体検査(間接蛍光抗体法、ELISA)

原因と判定するにはペア血清を用いて抗体の陽転あるいは抗体価の有意上昇を確認するか、あるいはウイルスを分離する必要がある。

(間接蛍光抗体法)

マイクロプレート抗原あるいはカバースリップ抗原を用いて実施

(8) 免疫組織化学検査

肺やリンパ組織の免疫組織化学検査によりマクロファージの細胞質に抗原を検出

(参考文献)

- 1) Kono, Y., et al.: J. Vet. Med. Sci. 58, 941-946 (1996).
- 2) Christopher-Hennings, J., et al.: J. Clin. Microbiol. 33, 1730-1734 (1995).